

鴻巣御殿は小池氏が造る! そうだったのか?

ながとのかみ
小池長門守久宗

鴻巣宿 (後の鴻巣市)

天文20年(1551年)、北条氏康の命により岩附城下の市宿より移住し市宿新田の開発、
鴻巣宿の発展の基礎をつくった。孫の隼人助は鴻巣御殿用地を寄進。子孫は三太夫を名乗り、宿役人を務めた。

しゅりのすけ
加藤修理亮宗安(旧姓小池)

中丸村 (後の北本市中丸)

小池長門守久宗の次男で、母方の姓を名乗る。法名、明雲院殿月菴宗安居士。慶長4年8月4日没。墓所は館跡にある真言宗安養院。通称、辛左衛門を名乗る。

関東の将軍

応仁の乱の東軍の総大将

鴻巣宿の宿役人(本陣)として、徳川三代将軍を接待!

小池家の由緒「新記 享保元年・13年同家由緒」

鴻巣宿と小池氏

室町幕府管領、守護大名「畠山長政(1442~)」の家臣として、紀州(和歌山県)日高郡小池を統治しており、小池姓は、その地名をとった、とある。主計助の代に、北条氏茂(早雲)に仕え、相州小田原に住んだが、その子長門守は岩付に移り、天文20年(1551)北条氏康の命を請け鴻巣領内に砦を築き、原地を開発した。

長門守は、天文20年9月1日付で諸役免除、夫食給与の印判状を与えられる。戦国大名の開発奨励優遇策の一つ。小池氏が岩付領の市宿に居住していたことから市宿新田と名付け、これが後の鴻巣町となる。

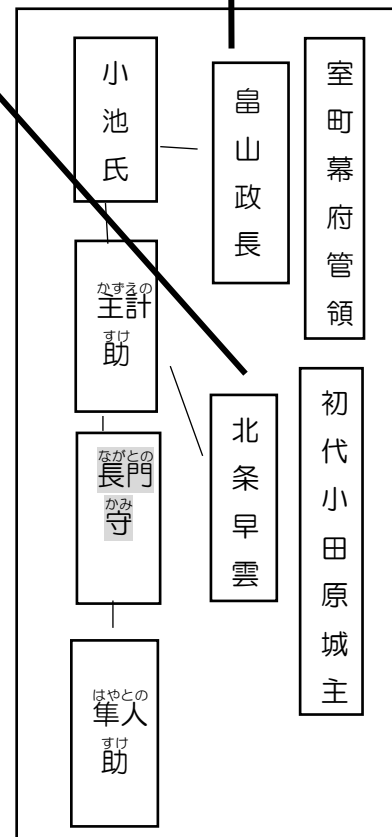
家康と小池氏

家康の鷹狩の案内人として活躍したのは、小池隼人助であり、宿の提供や道案内の功により、軍扇を与えられ、以降扇を家紋としている。一由緒書の記述には「其頃隼人助居宅の地へ御殿御建」とあり、「御殿」すなわち「鴻巣御殿」の建設に尽力したことが記され、その管理もま

宿駅の移動

深井対馬守景吉(鴻巣七騎の一人)が宿駅を取り立てたものとした上で、景吉が天正18年(1590年)以降に現在の鴻巣市宮地に移住していることから、宿駅の移設もそれに伴ったものとしている。「北本市史」一方、『鴻巣市史』は岩附城下の市宿から天文20年(1551年)に移って、市宿新田として開発をした小池長門守久宗(鴻巣七騎の一人)の名も挙げ、「近世の鴻巣宿は戦国期に取り立てられ、その後移動したものとする。

間違いがあるよ



鴻巣御殿 埼玉県鴻巣市本町 4-8

北条氏滅亡後、徳川家康が関東に入封し、1593年(文禄2)関東郡代伊奈忠次の命を受けた小池隼人助が、家康の鷹狩の際の宿泊所として砦跡に御殿を建造した。

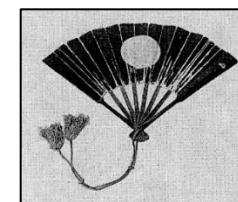
秀忠、家光の3代に渡り使用されたが、1630年(寛永7)頃を最後として、以後使用されなくなった。

1657年(明暦3)江戸大火後は、御殿の一部が解体され江戸城に運ばれ1682年(天和2)頃には残りの建物も腐朽し倒壊、1691年(元禄4)御殿地には小池氏によって東照宮が祀られ除地となった。

この東照宮は鴻神社(本宮町1-9)に合祀されたが、同地にはこれをもとにした御成町東照宮が祀られている。



現御殿跡 鴻巣



家康より拝領の軍扇



江戸図屏風図より 鴻巣御殿



鴻巣吹上富士 英泉図